

第4回 石狩市総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成27年12月15日（火）13:30～15:00
 2. 場 所 石狩市役所3階 庁議室
 3. 出席者 6名（全員）

総合教育会議構成メンバー

役 職	氏 名
石狩市長	田岡 克介
教育委員長	徳田 昌生
教育委員（委員長職務代理者）	門馬 富士子
教育委員	松尾 拓也
教育委員	山本 由美子
教育長	鎌田 英暢

4. 事務局等

事務局

部 局	役職	氏 名
企画経済部政策担当	部長	小鷹 雅晴
	参事	伊藤 学志
	主査	武田 知佳
	主任	柿崎 恵一
	主任	小林 修

出席職員

部 局	役職	氏 名
生涯学習部	部長	百井 宏己
	次長（教育指導担当）	武田 淳
	次長（社会教育担当）	東 信也
生涯学習部総務企画課	課長	蛭谷 学俊
	主幹	松永 実
	主査	高石 康弘
生涯学習部学校教育課	課長	安崎 克仁
生涯学習部教育支援センター	センター長	板谷 英郁
	課長（特別支援教育担当）	森 朋代
保健福祉部福祉総務課	課長	池田 幸夫
保健福祉部子育て支援課	課長	田村 和人

5. 傍聴者 1名

6. 協議事項

- ① 開 会
- ② 教育大綱素案について
- ③ 総合的な子ども支援について
- ④ 学校整備について
- ⑤ その他
- ⑥ 閉 会

7. 協議内容の記録（経過、質疑・意見）

（開 会）

- ・本会議は石狩市総合教育会議規則第4条の規定に基づき公表とする。
- ・本日の議事録を作成し、確認後、ホームページで公表する。

【事 務 局】 （教育大綱素案パブリックコメント実施結果の報告について）

10月22日から1ヶ月間パブリックコメントを実施。この結果1名の方から1件のご意見をいただいた。内容は、大綱の理念の中に「自立する市民」という表記があり、これは教育プランの中でも基本構想の中に位置づけられ、こちらの定義、それから解釈についてのご意見という形で寄せられたもの。検討した結果、その他ご意見として伺う形で対応させていただいた。結果は既にホームページで公表している。

教育大綱素案について、句読点や文言の修正はしているが、基本的には内容は変えていない。

【市 長】 「はじめに」の部分で、3行目「社会構造は大きく変わるであろうと指摘されています。」の「指摘」という単語が合わないのでは。また、「他者との協働」のところで、協働という言葉に他者も含まれるので他者という表現は不要ではないか。

【教 育 委 員】 11行目の「一人ひとりの心が支えあい」のところで、一人ひとりが支え合いではなく、心が支え合うという表現が気になる。

【事 務 局】 ご指摘の部分の文言を整理して教育大綱の決定としたい。

（一同了承）

【事務局】 次に、総合的な子どもの支援について、教育大綱方針6とも関連しているが、いわゆる子どもの貧困対策を今後どのような方向で進めるかなどを協議し、共通認識を図りたい。

【事務局】 (保健福祉部から説明)

生まれてから高校生までの間の成長段階において、切れ目の無い施策として、大きく4つの支援を考えており、1番目が教育支援で、学校と福祉関連機関との連携、経済的負担の軽減、学習支援の充実、多様な体験機会の提供、などを盛り込んだ事業。2番目が生活支援で、保護者の自立支援や保育の確保、食育の推進に関する支援、相談職員の充実といった事業。3番目が就労支援で、就労に必要な資格取得経費の助成や国家資格取得経費の助成事業。4番目が経済的支援で、児童扶養手当、ひとり親家庭等医療費給付事業、生活保護事業となる。

【事務局】 (教育委員会から説明)

教育委員会でもこれに連携する形で、学びの場の充実とアプローチの体制の大きく二つに分かれている。

【市長】 個別の議論に入る前に、どのような時代認識・課題認識のもとに議論するのか。

【事務局】 全国的に子どもの貧困という大きな課題があるなかで、石狩市内でも同じ状況の子どもたちがいる可能性があり、その支援の必要があると認識している。

【市長】 対象になる子どもや子どもを育てる親・家庭など総合的な子ども施策をさらに具体化し窓口を一つにして、例えば3人子どもがいたら、その3人の違った情報を持つのではなくて、やはりその家の情報というのを共有する横軸は必要ということ。

【教育委員】 体制としての横軸が脆弱に感じる。やはり横軸に相当するような、絶えずこの事を考えるような専任の人や部署が必要ではないか。

【教育委員】 資料の「(仮称)子ども支援センター事業」とあるが、横軸を通すための組織を作るという意味なのか。

【市長】 子ども支援センターという新たな組織を作るものではなく、事業として、意思決定のできるセクションが必要になる。いずれにしても、実態

の把握が必要。

【教育委員】 家庭奉仕員や子ども生活支援で食生活を改善されるという事も実施してみないと中々わからない所もあると思うが、そういった時にどういう支援のあり方を今のところイメージしているのか教えていただきたい。

【事務局】 まずは生活保護家庭における健康支援、それぞれの家庭が持っている健康的な課題と併せて子どもたちが、家で理想的な生活を送れるようにこの訪問支援員と一緒に親御さんと環境づくりをしていきたいと考えており、食にこだわったのは、しっかりとした食生活をおくることが出来ない、勉強できる環境にはならないという考えが根本にある。

【教育委員】 乳幼児の家庭全戸訪問や子どもたちが自ら献立を考えて弁当を作るような調理実習など良い事業になるような支援の形になって欲しいと思う。

【教育委員】 中高生学習支援事業について、ふらっとくらぶやフリースクールという話があるが、石狩市内にフリースクールは無い。

【事務局】 札幌にはフリースクールが何校かある。ふらっとくらぶは最終的に学校に戻る理念、フリースクールは学校に戻らなくてもよい理念で、根本的に思想が違う。

【市長】 子ども達や親の選択肢に制度が付いて行っていない。

【事務局】 多くの問題があり、それぞれのセクションにおいて個々の情報は把握しているが、個人情報保護の観点から事案（相談）によって初めて共有される。結局は事後対応となっていることが多く、相談に来る前にアウトリーチで困り感を把握して対応する手法を考える必要がある。

【事務局】 3点目は、学校整備について、現在検討を進めている厚田区及び本町・八幡地区での学校整備の具体案について、現時点での状況の報告願う。

【事務局】 （教育委員会から説明）

学校整備の具体策案について、本町・八幡地区の石狩小学校、八幡小学校を統合し、現在の八幡小学校の校舎施設を活用。厚田区内の3つの小学校と2つの中学校を小学校、中学校それぞれ一つに集約し、現在の厚田中学校の敷地内に小中一体型の学校を整備する。準備期間は最短で

4年と考えている。11月に各地区での検討会、12月・1月には学校、保育園等の保護者への説明会、その後地域の人を含めた説明会を予定。

【教育委員】 学校整備について、施設の老朽化や児童生徒の減少による統廃合の話しを中心となりネガティブなイメージが強い印象を与えている。そうではなく、そういう機会を捉え石狩として誇りにできる良き教育システムを構築する方向で検討を進めている。

【事務局】 また、この内容について協議したい。次回会議は1月末ごろを予定。

(閉会)

平成28年 1月13日

署名委員

門馬 富士子
